

り發令、教師先生と云ふ段取りになり、本間僧正は既に大崎大學の人となられて御歸山、無之爲め、其代りに關本僧正と云ふので奈良に御遊學中の處を執事米山義隆上人が請待に出馬される、私は大垣に走つて釋覺圓上人を助教授に願つて來る。一方學生募集の廣告が出たため學生も大勢參集、再び大見台が用を勤むることとなつて學院の春が迎へられ。甲府の方から青柳眞孝君、秋山智照君、池上檀林の方から齋藤純正君等、九州より立野良瑞君、松田惠徳君、東義信君、水山泰山君等（今は故人となられし方が多い様です）それに現在御山の本行勲下里僧正、麓坊の丸山上人方も來院就學、後に川手海禪師

吉田圓是師、鎌田麗嶽師方も登院勉學された様です。かくて私は日露戰爭に應召出征しましたが、在延の富木上人より戰地への慰問狀中に祖山大學院の「大」の字が看板より削られたとの悲報に落涙した様な事も有りましたが、三十九年凱旋後直に御禮參りに登山の砌は小山圓泰上人の先生時代で、上人は私を見られると、お前は學院に縁深き者だとて一夕凱旋の歡迎會など開いて貰ひ、丁度學院より出征されて之も凱旋されし鎌田麗嶽師（當時歩兵少尉）と共に歡待を受けし事共ありまして随分古き昔語りであります。越えて明治四十一年御山より三門建

立の御布教が九州に行はれ、豊永良上に隨伴して故武田宣明僧正又今尙健在の中村是本僧正とが御隨行に加へられし事共も共に學院出身と云ふ御縁故に基きしものと存じます。其上愚息英雅など大崎に入學させし者が後に學院に轉校御山で卒業させて貰ひし事共、能く／＼深き因縁の存することかと存じます。爾來學院は益々隆盛に向ひ、愈々今日の發展を見るに至りましたこと、何共慶祝の情に堪へない次第であります。

## 昇格を祝ふ

武田海正

一粒の麥の發芽も天地萬物の合力による。一軒の家も萬人の普請合力によつて建つのである。

明治維新は決して維新の時に成つたのではない。この回天の聖業を成功せしめたものは長い間の國民に對する思想的訓練であつた。逆賊北條幕府に向つて立正安國の大義を説いた日蓮聖人の思想は楠木正成公に生きて法華經を淨寫せめ、水戸光圀公に流れて大日本史を篇纂せしめた。その行動、その著述の中にあらはれた尊皇愛國の燒夷彈は國民の魂と魂をゆすぶり、燃し盡さないではお

かなかつた。その精神運動が遂に明治維新を斷行せしめたのである。學院昇格の背後にも二十數年來の思想的訓練があつた私共が入學した當時、學院の盟休は年中行事の一つであつた。その内容は定つて昇格運動であつた事を知るならば今ほめてもらつてもよい。

昭和の初頃、丸山先生は昇格の書類調査の爲、縣廳へお百度参りをし、松木先生は校友に應援を求め、結城先生は學院の設計圖を書き、能所一休となつて學院は一大の玉となつて燃えさかつた事があつた。學院昇格が常置會を通過したといふ聲に釋迦堂に讀經してゐた全學生は男なきに泣いた事は今尙記憶に鮮かである。その熱力におされて時の本山當局は學院建設地を西谷清水坊下に定め、學院建設地と書いた新しい柱を建てた。私共はその柱を見る爲に、わざわざ西谷を登降したものである。その柱によつて全學生の前途に理想の光明が輝いてゐた。その柱こそ全學生の生涯の運命を豫言するものと思つて感激した。しかし學生が感激してゐる程實社會はあまいものではなかつた。それから間もなく本山當局から學院の昇格は御遠忌がすんだらやるといふ聲がもれて來た。學生は又奥の手が出たわいと感じただけれど、宗祖の御遠忌といふ有難い言葉に誰一人不平いふものもなく年月は流

星の如く流れ去つた。かうして昇格運動は何べんかくりかへされたが、その度毎に龍頭蛇尾に終つた。しかしその人柱的功勳は認めてやらねばなるまい。

立正大學昇格運動の尖兵片山先生が今度學院の教頭となると聞いた時、私共はさては二十數年來の懸案が解決するよき日が來たと思つた。はたせる哉、昇格運動は學院能所一團となつて太陽のコロナよりも高くもえあがつた。學院の先生も學生も一土工となつて木を引き土をかつた。いつも反對と相場が定まつてゐた本山當局は率先して學院をむしろ引張りまわす程熱心に昇格運動に参加して、精神的にも物質的にも十二分に精進せられたかくて内因は未曾有の結束をみた。それに應じて文部省の永倉先生は懸命の御盡力を添へられる。小野先生又親身も及ばぬ應援をして外縁も熟した。かくて内因外縁調熟して中等部は祖山中學となり、高等部は身延山専門學校として昇格した。これひとへに本佛本化の冥護と、現法首貌下の徳光でなくて何であらう。

あゝ私共が何十年來夢にも忘れ得なかつた母校の昇格が、この地上に實現したのだ。天地をあげて歡喜のるつぽと化せしめ、この歡喜力行の感激をして永劫に身延山専門學校の校風と歌はしめよと、祈願するものである。